

## <海外短期研修4日目(12/20)>

この研修前半最終日の4日目、今日も朝から青空と暖かい日差しの降り注ぐ、穏やかな一日のスタートとなりました。

午前中の英語の授業では、2日目という事もあり、昨日よりは周りの状況が解り、落ち着いて楽しめていた様子です。昨日の昼休みに、初日から一緒にお昼ご飯を食べに行けた生徒もおり、他国の学生と打ち解けるのは昨年よりも早いような感じがします。ある授業は「超アクティブラーニング」だったそうで、テーマに対して自分の意見や考えを発表・反論していくディベート形式で進められたとのこと。初めてのことで難しい面もあったようですが、文化や考え方の違う他国の学生とこのような授業を行う事を愉しいと捉え、前向きに取り組む知的好奇心の高さに感心させられました。

午後はマサチューセッツ工科大学(MIT)を訪問しました。

案内してくれたのは吉永さんです。東京の私立高校をご卒業された後、東京大学工学部化学生命工学科を経て、昨年9月からMITで学ばれています。広大なキャンパスを吉永さんが事前に準備してくださったミニポスターと共に1時間かけてキャンパスツアーをしていただきました。待ち合わせをしたRogers Buildingからはじまり、MITと検索するとトップに表示されるドーム型の建物、通常Great Dome、こちらではMIT生はいたずら好きであるということでHackの有名なエピソードのひとつ、ドームの上にパトカーを置くいたずらをしたお話をポスターとともにお話していただき、驚きと笑い声が響きました。

その他吉永さんが毎日研究を行っている物理研究センター、事前学習でも取り扱ったメディアラボ、統一性のないデザインが目目を引くState Centerなど、吉永さん自身の学生生活のなかでどのように使用しているか、またそれぞれの建物がもつエピソードをまじえながらご案内してくださいました。

ハーバード大学とはまた違った雰囲気、「ハーバード大学は歴史、MITは最先端といった印象を受ける」と見学しながらコメントをしていた生徒もおりました。MITは建物のなかにも比較的自由に出入りすることができますので、講義中の教室の廊下を通ったり、カフェテリアで写真を撮っていたらMIT生に話かけてもらうなど、より学生の実生活に近いキャンパスツアーになったように思います。

座談会は1時間程となりましたが、自分たちの状況を吉永さんであればどのようにするだろうという視点で多くの質問がありました。「いま振り返って、吉永さんが高校生の頃にやっておいた方が良かったことは?」「好きだけど不得意、きらいだけど得意なこと、選択するならどちらか」などの質問には'Desire'をキーワードに「振り返ると自分の原動力になったのは自分を啓発し続ける力だった。モチベーションを維持することは容易ではない。だからこそ夢を描き、情熱を傾けられることを選択していくべき。」と東大へ入学し、MITに留学を決めた経緯を交えながらお話していただきました。また、「こちらの学生と日本人の徹底的な違いはなにか」という質問には即答で「アウトプットする力」との回答。アメリカでは「発言しないのはそこにいないのと同じこと」だということを強く実感するともコメントされ、確かな実力がある北高生には、現在直面している課題を前にこれらの言葉が特に響いたように感じ

ました。最後に興味があればとのことで現在吉永さんが行っているプロジェクトについてもご紹介していただき、座談会が終了したあとも質問する生徒もおりました。

この研修ではたくさんの人との出会いがありますが、ここで得た人脈は必ず生徒の皆さんの未来に繋がると思いますし、繋げて欲しいと願います。

写真は、MITでの集合写真、MITメディアラボ内見学風景、吉永さんとの座談会

